

2025年6月25日所長会見 所感

- 本日私からは、6号機の進捗状況についてお伝えいたします。
- 先日、お知らせした通り、6号機の燃料装荷については、6月21日に872体全て完了いたしました。
- 燃料装荷を進める中で、手順書で想定されていた不具合について、その都度しっかりと立ち止まり、プラントメーカー、協力企業も含めた関係者で協議し、安全性を確認した上で進めることが出来ました。
- 燃料装荷後の21日から22日にかけて、全ての燃料が正しい位置にあること、一番厳しい条件となる制御棒1組を完全に引き抜いた状態であっても臨界状態にならないことを確認しています。
- 今後は、原子炉圧力容器の蓋を閉じ、圧力容器・配管への水張りを行ったうえで、順次健全性確認を進めてまいります。
順調にいけば、これまでお伝えしているとおり、8月頃には、7号機同様に再稼働に向けて技術的な準備が整う見込みです。
- 一方で、7号機は、特重設の設置期限を10月13日に控え、制御棒引抜、およびその後の健全性確認について、事前の準備を含め、一つひとつ確実にを行うためには、リソース手配等の準備に入る必要があります。しかしながら、県内では再稼働に関する議論が進行中の状況です。
- これらの状況を踏まえると、現場の安全を預かる発電所長として、6号機の起動準備に集中すべきであると判断しました。

- そして、昨日その考えを社長の小早川に伝え、「私の考えを尊重する」との返答をいただきました。
- それを受けて、昨日夕方に小早川、福田、私の 3 名から、発電所員をはじめ、原子力・立地本部所属の社員に向けて、メッセージを直接伝えました。
- 社長からは、7 号機の起動準備や 6 号機の燃料装荷など、これまでの努力や、行動と実績を着実に積み重ねてきていることへの労い。

現在の日本において原子力発電は不可欠であり、地元だけでなく日本国内様々な方から、再稼働に向けた期待の声を寄せられていること。

そうした声にお応えし、当社の使命を果たすためにも、より一層、現場と本社が組織を超えて一丸となって、再稼働を目指していきましょう。

と、前向きなメッセージを伝えていました。
- 私からも、福島第一原子力発電所事故の教訓を取り入れた安全対策工事を 10 年以上に渡って実施してきたこと。工事未完了や核物質防護事案へのリカバリーに全力を尽くしてくれたことへの感謝を伝えました。
- そして、今回の判断に至った私の考えとともに、発電所で働く全員が、発電所の志を胸に、ワンチームとなって 6 号機の起動準備、その後の健全性確認に集中していこうとも伝えました。
- 6 号機の起動準備に集中することについて、社員それぞれに思う所があるかもしれませんが。あらためて私が先頭に立ち、地域の皆さまから信頼される発電所を目指してまいります。